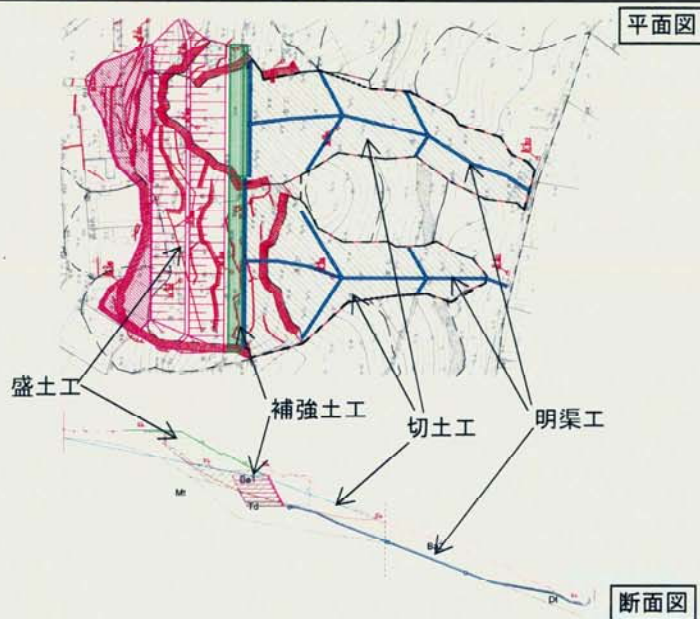
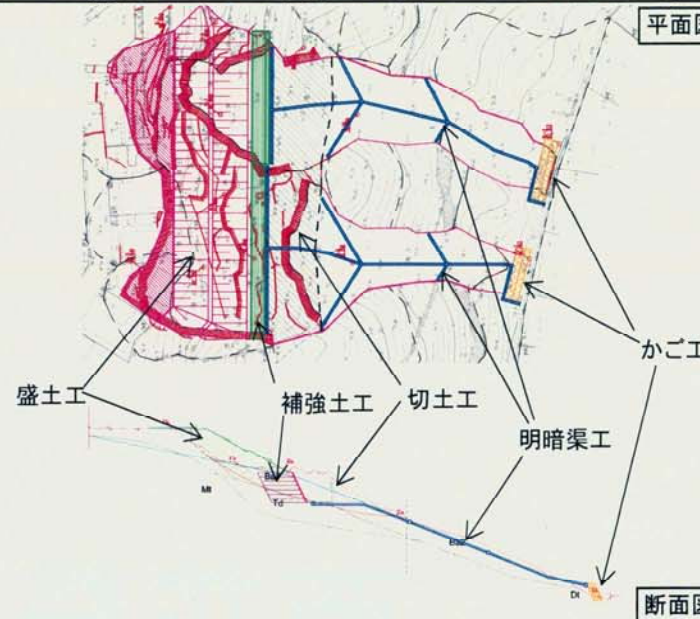
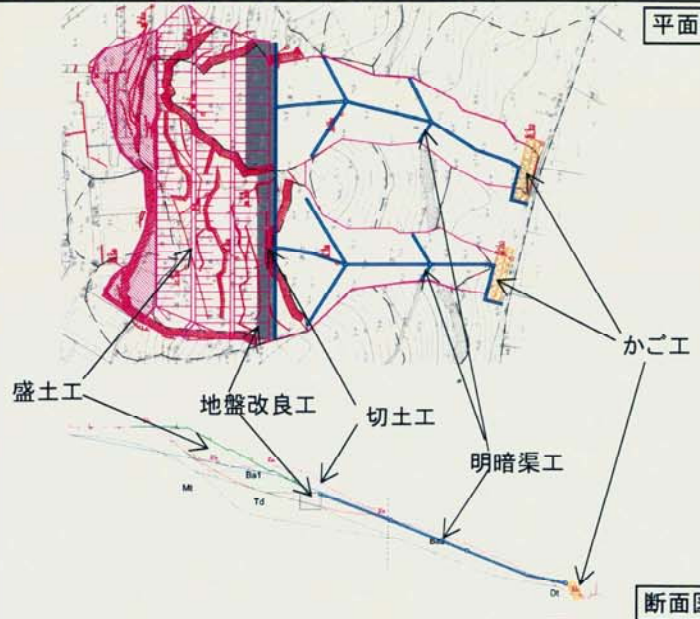


西花苑地区

西花苑一丁目地区 対策案比較表

		対策案1	対策案2	対策案3
抑止工		なし	なし	なし
地表水・地下水排除工		明渠工 (U350コルゲートフリューム)	明暗渠工 (U350コルゲートフリューム+高密度ポリエチレン管 φ150)	明暗渠工 (U350コルゲートフリューム+高密度ポリエチレン管 φ150)
その他		切土工+補強土工+盛土工(良質土)+植生工	切土工+補強土工+盛土工(良質土)+植生工+かご工(大型かご枠工)	切土工+盛土工(良質土)+地盤改良工+植生工+かご工(大型かご枠工)
概要	図			
	説明	・谷埋め盛土部(上部)と沢底部(下部)の不安定土塊を全て切土(排土)する。 ・谷埋め盛土部は、地山部分を基礎とした補強土工による土留めを構築し、その背面に良質土による盛土を行う。 ・沢底部については、切土斜面に明渠工(U350コルゲートフリューム)を設置し、斜面を植生工により保護する。	・谷埋め盛土部(上部)は、不安定土塊を切土(排土)した後、地山部分を基礎とした補強土工による土留めを構築し、その背面に良質土を盛土する。 ・沢底部(下部)は、末端部に排水とのかご工(大型かご枠工)を設置する。また、斜面は整形を行い、植生工により保護するとともに明暗渠工を設置し、地表水・地下水の排水を確保する。	・谷埋め盛土部(上部)は、不安定土塊を切土(排土)した後、盛土の基礎部で地盤改良を行いセメント改良体を構築する。その後、良質土により盛土を行う。 ・沢底部(下部)は、末端部に排水とのかご工(大型かご枠工)を設置する。また、斜面は整形を行い、植生工により保護するとともに明暗渠工を設置し、地表水・地下水の排水を確保する。
仕様		○切土工 : $V=33,800\text{m}^3$ ○盛土工(良質土) : $V=22,400\text{m}^3$ ○補強土工 : $L=79\text{m}$, $A=620\text{m}^2$ ($H:7\text{m} \times 45\text{m}$, $H:9\text{m} \times 34\text{m}$) ○明渠工 (U350コルゲートフリューム) : $L=316\text{m}$ ○植生工 : 種子散布(盛土法面) $A=2,700\text{m}^2$, 植生シート(切土法面) $A=1,600\text{m}^2$	○切土工 : $V=23,600\text{m}^3$ ○盛土工(良質土) : $V=22,400\text{m}^3$ ○補強土工 : $L=79\text{m}$, $A=620\text{m}^2$ ($H:7\text{m} \times 45\text{m}$, $H:9\text{m} \times 34\text{m}$) ○明暗渠工 : U350コルゲートフリューム+φ150高密度ポリエチレン管 $L=234\text{m}$ U350コルゲートフリュームのみ $L=98\text{m}$ ○植生工 : 種子散布(盛土法面) $A=2,200\text{m}^2$, 植生シート(切土法面) $A=1,600\text{m}^2$ ○かご工(大型かご枠工) : $L=30\text{m}$, $A=120\text{m}^2$ ($H:1\text{m} \times D:2.5\text{m}$, 4段積み)	○切土工 : $V=20,600\text{m}^3$ ○盛土工(良質土) : $V=22,900\text{m}^3$ ○地盤改良工(中層混合処理工法) : $V=2,200\text{m}^3$ ○明暗渠工 : U350コルゲートフリューム+φ150高密度ポリエチレン管 $L=224\text{m}$ U350コルゲートフリュームのみ $L=98\text{m}$ ○植生工 : 種子散布(盛土法面) $A=2,600\text{m}^2$, 植生シート(切土法面) $A=2,500\text{m}^2$ ○かご工(大型かご枠工) : $L=30\text{m}$, $A=120\text{m}^2$ ($H:1\text{m} \times D:2.5\text{m}$, 4段積み)
特徴	長所	・不安定土塊を全て切土(排土)することから、斜面全体の安定性が最も高い。	・地山部分を基礎とした補強土工を土留めとして構築することから、谷埋め盛土部(上部)の盛土の安定性は高い。 ・沢底部(下部)の末端部の安定性が高い。	・最も経済的である。 ・沢底部(下部)の末端部の安定性が高い。
	短所	・不安定土塊を全て切土(排土)することから、土工量が最も大きくなり、周辺環境への影響も大きくなる。 ・盛土材および残土運搬が多く、周辺交通への配慮が必要となる。	・沢底部(下部)に不安定土塊が残る。 ・盛土材および残土運搬が多く、周辺交通への配慮が必要となる。	・沢底部(下部)に不安定土塊が残る。 ・盛土材および残土運搬が多く、周辺交通への配慮が必要となる。 ・地盤の改良不足があった場合、盛土法面の安定性が低下する可能性がある。 ・地盤改良体が遮水壁となり、地下水を滞留および上昇させる可能性がある。

施工条件	施工スペース	バックホウ、ブルドーザー、ダンプ等の施工スペース必要	バックホウ、ブルドーザー、ダンプ等の施工スペース必要	バックホウ、ブルドーザー、ダンプ等の施工スペース必要
	周辺変状	・南側ブロックの斜面背後には谷埋め盛土が厚く分布していることから、切土の際、変状をきたす可能性がある。 ・大雨時、斜面各所からの湧水が予想され、沢底部(下部)の不安定土塊は泥濘化しやすく、施工困難となる。	・南側ブロックの斜面背後には谷埋め盛土が厚く分布していることから、切土の際、変状をきたす可能性がある。 ・大雨時、斜面各所からの湧水が予想され、沢底部(下部)の不安定土塊は泥濘化しやすく、施工困難となる。	・南側ブロックの斜面背後には谷埋め盛土が厚く分布していることから、切土の際、変状をきたす可能性がある。 ・大雨時、斜面各所からの湧水が予想され、沢底部(下部)の不安定土塊は泥濘化しやすく、施工困難となる。
	機械搬入	ダンプトラックなどが頻繁に通行できる通路が必要である。	ダンプトラックなどが頻繁に通行できる通路が必要である。	ダンプトラックなどが頻繁に通行できる通路が必要である。
	その他	大量の土砂を扱うため、施工時の環境影響の懸念がある。	大量の土砂を扱うため、施工時の環境影響の懸念がある。	大量の土砂を扱うため、施工時の環境影響の懸念がある。
環境条件	騒音	土砂運搬、切土・盛土作業等による騒音が生じる。	土砂運搬、切土・盛土作業等による騒音が生じる。	土砂運搬、切土・盛土作業等による騒音が生じる。
	振動	土砂運搬、切土・盛土作業等による振動が生じる。	土砂運搬、切土・盛土作業等による振動が生じる。	土砂運搬、切土・盛土作業等による振動が生じる。
	地下水汚濁	特になし	特になし	六価クロムの溶出試験が必要である。
	景観	緑化型補強土工を採用すれば、景観の向上は図れる。	緑化型補強土工を採用すれば、景観の向上は図れる。	末端部のかご工を除けば、斜面全体の緑化が図れる。
留意点		・谷埋め盛土部(上部)の盛土工および補強土工において、排水対策を十分に行う必要がある。 ・大量の盛土材を必要とするため、採取場所からの運搬などに関する計画が必要である。	・谷埋め盛土部(上部)の盛土工および補強土工において、排水対策を十分に行う必要がある。 ・大量の盛土材を必要とするため、採取場所からの運搬などに関する計画が必要である。	・谷埋め盛土部(上部)の盛土工および地盤改良工において、排水対策を十分に行う必要がある。 ・大雨時には地下水が集中するため、地盤改良体が遮水壁となり、地下水の滞留および上昇を生じさせる可能性が懸念される。よって、地盤改良については十分検討する必要がある。
総合		○	◎	△